

正々堂々 激闘制し掴んだ栄光

声・球際・ハードワーク 三原則を徹底し頂点へ

千西一遇



第120号
発行
2024年
12月31日(火)
上田西高校
新聞委員会
編集局
編集局長：塚田 礼
新聞委員長：大澤理子
金井 茉優
小林 さち
レイアウト：塚田 礼

第103回全国高等学校サッカー選手権長野県大会で優勝しトロフィーアップを行う上田西の選手達



4回戦 上田西 3-1 長野吉田

ゴール前まで攻め込むも長野吉田高校の強固なディフェンスに苦戦した4回戦。総体北信王者の実力にプレッシャーを受ける展開になったが、交代で入ったFW 柳沢輝が先制点を決めて上田西に勢いをつけた。その後は膠着した展開になったが、FW 徳間陽向がミドルシュートを突き刺し試合を動かすと、終盤にも1点を追加した上田西がそのまま逃げ切った。



3回戦 上田西 13-1 松川・下濃

緊張感を持ちつつ迎えた初戦となる3回戦。前半で4点をあげ、序盤から試合を支配した上田西。後半にも矢継ぎ早に得点を重ね、数名がハットトリックを記録するなど個人の活躍が目立った試合となった。しかし、後半には痛恨の1失点。大差をつけ初戦勝利を飾ったものの、最後まで集中力を保つことほどきず課題を残す結果となった。

北信王者相手に辛勝

大勝も悔い残す1失点

県制覇までの道のり

上田西高校サッカー部は第103回全国高等学校サッカー選手権長野県大会で優勝し、7年ぶりの全国出場を果たした。全国への道は2018年1月6日(土)の全国大会敗戦から2024年11月9日(土)の県大会優勝までの2500日と60000時間という長い道のりであった。県大会初戦となった3回戦は大勝したものの、それ以降は苦しい局面の連続であった。しかし、選手一人一人の活躍で着実に勝利を重ね、決勝へと駒を進めた上田西。「多くの人の想いが1つになり形になりました」と百尾秀人監督が話すように、決勝戦は延長を経てPK戦までもつれたが、これを制して悲願の優勝を遂げ、激闘が繰り広げられた長野県大会は幕を閉じた。その県大会を振り返ると共に全国大会への展望に迫る。(金井 茉優)



決勝 上田西 2 (7PK 6) 2 市立長野

決勝の相手は7年前と同じ市立長野。前半、FW 松本が芸術的なペナリシュートでゴールをこじ開け先制点。さらに松本が追加点を決め、主導権を握った。後半同点に追いつかれ延長戦へともつれた試合は両チーム堅守を貫き、PK戦へ。迎えたPK戦で上田西は7人が全員が決めると、対する市立長野の7人が失敗。上田西が全国への切符を掴んだ。



準決勝 上田西 1-0 都市大塩尻

今年の総体県王者を相手に執戦が繰り広げられた準決勝。停滞した試合を動かしたのはFW 松本翔瑛だった。武器とする足元の技術を使ったミドルシュートを使ったミドルシュートを突き刺し、値千金の先制点。その後、追加点は奪えなかったが堅守を貫いた上田西がリードを守り抜いた。都市大とのリーグ戦での対戦は2分後であったが、これに決着を着け、昨年の選手権の借りも返した。

ウノゼロで4年ぶりの決勝へ



準々決勝 上田西 2-0 長野日大

積極的に攻め込むも守りを崩さず、両者譲らない状況が続いた準々決勝。そんな試合を動かしたのがDF 和泉崇哉とDF 東風谷崇太。共にセットプレーから得点を決め、2点リードで前半を終えた上田西。後半では押し込まれる場面が増えるも、選手権初出場のGK 新津倉太がビッグセーブを見せるなど活躍し、無失点。見事4年ぶりの準決勝進出を決めた。

背番号12が躍動し勝利

監督 白尾 秀人 11FW 高橋 亮雅 9FW 柳沢 纏 8FW 徳間 陽向 6MF 池田 博希 10MF 鈴木 悠杏



長崎・国見高(鹿児島・与論高)〜国士館大〜リリーグヴァンフォーレ甲府や松本山雅などで活躍した快速ストライカー。現役引退後は地球環境高、東海大三(現・東海大諏訪)高、野沢南高で指導者として活躍。2016年〜上田西高で勤務。保健体育科。

- ①音楽を聴きながらストレッチ。
- ②不撓不屈。
- ③ポストプレー、裏への抜け出し。
- ④点を決めて勝つ。
- ⑤たくさんの応援を力に変えて絶対勝ちます！

- ①HIPHOPと洋楽を聴いて気持ちをぶち上げます。
- ②Never give up.
- ③スタミナとスピード。
- ④自分らにさだしてゴールを奪います。
- ⑤一生懸命頑張るで勝ちます。応援よろしくお願いします。

- ①タオルで自分の匂いを嗅ぐ、香水をつけて落ち着く。
- ②やることあるうちが華。
- ③サイドでのドリブル突破。
- ④自分ゴールでチームを勝たせる。
- ⑤熱い応援よろしくお祈りします！！

- ①移動中のバスで音楽を聴く。
- ②失敗は成功のもと。
- ③連続した守備、インターセプト
- ④感謝を忘れず少しだけでもみんなと長くサッカーできるように頑張ります。
- ⑤チーム全員でひとつになり絶対に勝ちます。

- ①左足からスパイクを履く
- ②雲外蒼天
- ③ドリブルやパスからチャンスを多く作ることができることです。
- ④球際、声、ハードワークを体現して、毎試合1得点1アシスト。
- ⑤勝つので応援お願いします！

- ①音楽を聴く。
- ②勇気は一瞬後悔は一瞬。
- ③ボールコントロール、チャンスメイク。
- ④後悔しないように全力出す。
- ⑤7年前の感動をもう一度届けます！



7FW 松本 翔琉

ゴールに向かう西高のストライカー

上田西の攻撃の要として注目なのはやはりFW松本翔琉。進法活潑、決勝計3ゴールを挙げた注目のストライカーだ。身体能力やドリブルのクオリティが高く、足元の技術を武器として活躍。長野県大会決勝では怪力のライオンボールで先制点を挙げると、続く好機は得意のフリーキックから自ら点を決め、流れを完全に上田西に傾かせたチームにとって欠かせない存在だ。

試演では上田西の代名詞となったロングスローを担い、セットプレーで好機を演出する。また、松本

は、出場する公立高校の中で最もトップクラスの実力を持つ。縦に強く速いサッカーが特徴の徳島市立高校。基本フォーメーションはお互い4-4-2となっておりサイドの攻防が勝敗の鍵を握りそうだ。チームの勝利の為に右SHの松本が果たす役割は大きい。長野県大会の活躍により注目度の高い選手となったため、相手からの徹底マークは確実。その徹底マークをこし開けつつ、自身も得意とするラストパスを含めた仲間を生かすプレーができれば上田西は得点に近づける事ができるだろう。

長野県大会では期待通り活躍を見せた松本。全国大会の舞台ではどんな活躍を見せるのだろうか。西高生をはじめとした応援団の注目は松本の左足に集まっている。(小井 茉優)

4DF 東風谷崇太 5DF 緑川 周助 2DF 和泉 亮哉 3DF 松本 悠真



- ①自分の好きな音楽を爆音で聴く。
- ②誰よりも熱く。
- ③空中戦の強さ、セットプレーからの得点力。
- ④守備では無失点で抑え、攻撃ではセットプレーなどで3点取る。
- ⑤全国での勝利という結果で感謝ができるように頑張りたい。

- ①とにかく笑うこと。
- ②人生楽しむ。
- ③ヒレアップ、予測能力。
- ④見ている人を楽しませて一戦必勝で戦います。
- ⑤少しでも長くこのチームを応援していただけるように頑張ります。

- ①自分で作ったSpotifyのプレイリストを聞く。
- ②初心忘るべからず。
- ③左足のクロス、サイドの対人。
- ④支えてくれる人に感謝を忘れず一杯戦います。
- ⑤必ず結果で感謝します。

- ①こまめに水分補給をする！音楽を聴いてモチベを上げる。
- ②感覚ではなくちゃんとやる。
- ③右足のキック、競い合い。
- ④関わる全てに感謝して一戦必勝で戦います！
- ⑤応援よろしくお祈りします。

第103回全国高等学校サッカー選手権大会

2回戦 VS 徳島市立

予想スターティングメンバー



- ①試合前のルーティン
- ②座右の銘
- ③自分の持ち味
- ④選手権への意気込み
- ⑤応援してくれる方々

予想フォーメーション



GK1 牧野 長太郎

相手に立ちはだかる西高の守護神

上田西の守備の要となるGKは牧野長太郎が務める。瞬発力やジャンプ力などに秀でており、特に、ロングボールやハイボール処理に定評がありチームに欠かせない存在である。2年前には長野県の国体選手に選出されるなど下級生の頃から頭角を現してきた。積極的なコーチングを得意としており、CBを中心にDFラインを統率している。FWでSHの松本翔琉にはロングボールの位置確認、SBの和泉亮哉にはラインコントロールの指示出しを行い、個人的人的的確な指示を出しつつ、最後尾からチーム全体をまとめている。

サッカー以外の学校生活の場面でも手を抜かない牧野は、勉強面でも好成績を残し、サッカーと学校生活の「文武両道」を達成している。

全国初戦の相手徳島市立は前線からのハイプレスと多彩な攻撃が特徴。1つの判断ミスが即失点のピンチを招くため、牧野の指示が勝敗の鍵を握るのは間違いない。仮に試合が引き分けに終わったとしても、上田西が無類の強さを見せるPK戦は「どちらか」とは望むところだ。そうだった場合は再び牧野の見せ場が訪れる。7年前は西高の守護神小山が躍動し、チームをベスト4に導いた。今大会の主役は牧野となるのか。西高の守護神から目が離せない。(小林 さと)

- ①スパイクの紐のよれを戻す。
- ②誰かの為に。
- ③応援の中でも声を通す。大きなコーチング、セービング。全国という最高の舞台でプレーできることに感謝してチームを後ろから支えたいと思います！
- ④応援をしてくれる事から千歳へ足を運んでくれた方、テレビの前で応援してくれる方々の為に勝利を届けたいと思います。

新人チームもPK戦を制して優勝 強さの秘密に迫る

上田西の優勝を喜ぶ声は、第103回全国高等学校サッカー選手権大会で、その決勝はPKでの決着となった。

直後の新人戦でも、選手権優勝の勢いそのままに5年ぶりの県大会優勝を果たした上田西。主将として戦った2年のMF宮川航汰は、「3年生と同じ優勝の景色を目指し戦った」と振り返った。

準々決勝は延長戦で勝利し、準決勝と決勝はPK戦を制した。2年生GK小池海里は、PKの際相手の視線を見てどこにボールが飛ぶかを分析し、

「目線の反対にくるを裏読み飛び込んだ」と振り返る。

このように選手権長野県大会の決勝、新人戦の準決勝、決勝と全てPK戦で勝ち収めた上田西。なぜそんなにPKが強いのだろうか。

1つの要因として連日味方したということがある。3回のPK戦までコンテントスの結果有利とされる先行をとった。これは昨年度野球場の至聖主将が県大会から甲子園の初戦まで全てコンテントスに勝ち後攻を選んだことが思い出される。

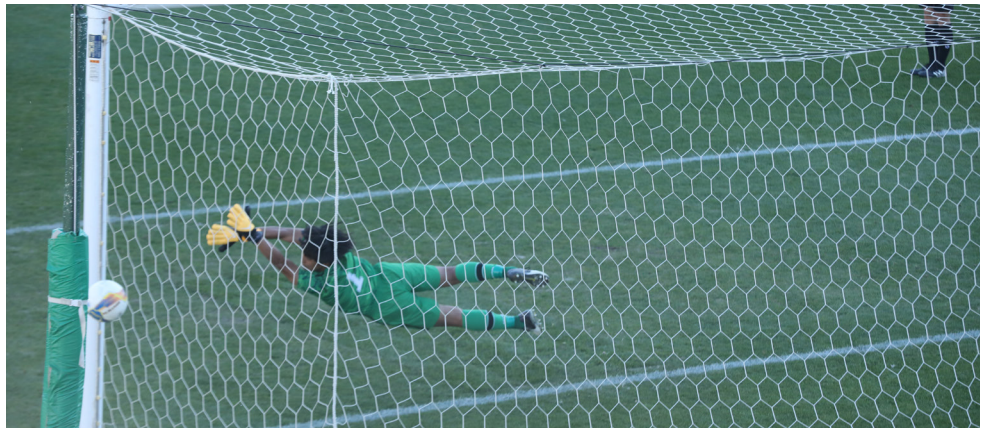
選手権決勝でPKを蹴った選手に話を聞くと、「迷わずに思い切り蹴ることを意識していた」「PK戦を想定して練習に励んでいた」と明かす。普段、練習の最後に20〜30分程度時間をとり、11人ずつの2チームを作り、GK同士が蹴り合うところまで想定して練習をしているそうだ。

このことから、選手達の蹴るコースに迷いがないことやGKが自信を持って飛び込めるのは、メンタルの強さだ。原因なのではないだろうか。本番を想定した毎日の練習の積み重ねが大舞台で選手達を強くしている。

| 新人戦県大会準決勝 PK戦 | |
|---------------|---|
| 上田西 | 5 |
| 都市大塩尻 | 3 |
| 新人戦県大会決勝 PK戦 | |
| 上田西 | 5 |
| 松本国際 | 4 |

選手権長野県大会決勝 PK戦

| | |
|------|---|
| 上田西 | 7 |
| 市立長野 | 6 |



選手権長野県大会決勝 上田西一市立長野
延長戦でも決着つかず迎えたPK戦。市立長野の7人目のPKは枠外に外れた

第103回全国高校サッカー選手権大会 上田西高校登録メンバー

- 1 GK 牧野 長太朗 3年 高陵
- 2 DF 和泉 亮哉 3年 高陵
- 3 DF 松本 悠真 3年 小川
- 4 DF 東風谷 崇太 3年 戸倉上山田
- 5 DF 緑川 周助 3年 栃木・さくら市立喜連川
- 6 MF 池田 博希 3年 永明
- 7 FW 松本 翔琉 3年 東京・品川区立品川学園
- 8 MF 徳間 陽向 3年 川中島
- 9 FW 柳沢 纏 3年 佐久東
- 10 MF 鈴木 悠杏 3年 静岡・浜松市立東部 (主将)
- 11 FW 高橋 亮雅 3年 戸倉上山田
- 12 GK 新津 蒼太 3年 小海
- 13 MF 棚澤 桂汰 3年 小諸東
- 14 FW 藤江 侑生 3年 千葉・大網白里市立大網
- 15 MF 宮崎 恒汰 3年 群馬・嬬恋村立嬬恋中
- 16 MF 本多 航大 3年 石川・かほく市立高松
- 17 MF 宮川 航汰 2年 中込
- 18 DF 深井 晴雅 2年 東御東部
- 19 DF 山浦 琉央 3年 芦原
- 20 FW 宮下 琉之 2年 松川
- 21 MF 橋詰 瑠斗 3年 東御東部
- 22 FW 成田 悠真 3年 篠ノ井西
- 23 GK 小池 海里 2年 静岡・浜松市立東部
- 24 DF 石川 柗牙 2年 塩田
- 25 FW 山崎 瑠唯 2年 東御東部
- 26 FW 中山 颯人 3年 旭ヶ丘
- 27 DF 松尾 世楽 3年 松川
- 28 DF 山浦 琉心 3年 芦原
- 29 MF 門田 侑都 1年 岐阜・大野町立揖東
- 30 MF 佐藤 大悟 2年 新潟・長岡市立関原

監督 白尾 秀人
 総監督 武田 善和
 コーチ 苦田 玲央
 コーチ 山本 海晴
 コーチ 小林 健二
 トレーナー 林 吉尚

初戦の相手は四国王者徳島市立



上田西のキーマンDF 東風谷崇太 (写真右)

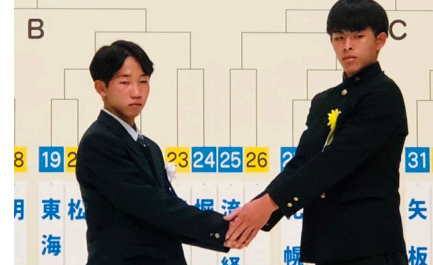
縦に強く、高い走力持つ強敵 上田西はチームの三原則を徹底し、走り負けない事が勝利の絶対条件

11月18日(月)に、第103回全国高等学校サッカー選手権大会の抽選会が行われ、抽選の結果上田西高校の初戦は2回戦となり対戦相手は四国王者徳島市立高校に決まった。

徳島市立は、全責が全力で走り高い位置で相手ゴールを奪つハイプレスからのサイド攻撃が特徴。選手権徳島県大会決勝では、6得点のうち4得点をサイド攻撃から奪った。両SHからの質の高いクロスに中盤の選手も含めた複数人が一

気に飛び込んでくる。特に要注意選手はMF山口凛太郎選手。チームが戦つて四国フリンスリーグでは、15試合で14得点をたたき出して得点王キングトップの選手である。活動量が豊富で攻撃の起点となる選手なので、プレッシャーをかけてボールを奪うべく持たせないことが鍵になる。上田西の鈴木悠杏主将とのポラッチ対決も見どころ。

上田西は、声・球際・ハードワークの三原則を徹



対戦が決まり握手を交わす上田西の鈴木悠杏主将と徳島市立の上田寛大主将

底し、スタイルが似た徳島市立に走り負けない事が勝利の絶対条件。敵陣に入つてからは、FW松本翔琉やFW徳間陽向を起点に好機を演出したい。磨いてきたセットプレーも武器になるだろう。そんな上田西の注目選手はDF東風谷崇太。チーム一熱く、空中戦で強さを見せるCBが徳島市立のクロスを跳ね返し、セットプレーから得点すれば流れが一気に上田西に傾くだろう。

試合会場となる千葉県フクダ電子アリーナは、風向きによって、ロングパスやシュートの軌道に影響を与え、広いスペースを使ったサイド攻撃やロングボール戦術が展開しやすいという特徴がある。普段強風が吹く千曲川沿いで練習している上田西に7年前同様の西高旋風が巻き起こるか。注目のキックオフは31日(火)14時10分となっている。

(大澤 理子)